

2026年度国際交流プログラム体験記（上）

8月11～19日 Global Student Leadership Program＝韓国・大邱保健大

身振り手振りで積極参加／お互いの文化教え合う

言葉の壁越え「伝える」楽しさ実感

看護学科2年 瀧下 陽奈さん

私は、韓国の大邱に9日間滞在し、韓国、タイ、マレーシア、フィリピン、中国、バングラデシュなど、さまざまな国の学生と交流できる Global Student Leadership Programに参加しました。

今回の留学を通して学んだことは、言葉が通じなくても、相手に伝えようとすることに意味があるということです。流暢な英語で会話が進む場面でも、翻訳機に頼らず、身振り手振りや知っている言葉を使いながら、積極的に会話に参加しました。時には得意な韓国語を使い、韓国人の学生に助けてもらいながら、言葉の壁を越えてコミュニケーションを楽しむことができました。言語の違いに難しさを感じることもありましたが、それ以上に、一緒に笑い合えることの喜びを感じました。また、他国の学生も日本語に興味を持ってくれ、お互いの言語や文化を教え合う中で、学び合うことの楽しさを実感しました。さらに、念願だった中国語で会話することもでき、とても嬉しかったです。

印象に残った経験は二つあります。一つ目は、韓国文化衣装体験です。チマチョゴリを着て、韓国の伝統的な衣装を実際に体験しました。韓国の文化をより身近に感じ

ることができ、楽しく韓国文化について学ぶことができました。

二つ目は、リーダーシップについての発表です。文化多様性の重要性とリーダーシップへの影響について、さまざまな国籍の学生で構成されたグループで発表しました。練習では時間を合わせて集まり、韓国語や英語を交えながら意見を出し合い、発表内容を完成させました。その結果、コンテスト形式の発表で1位になることができ、話し合いや練習の成果を発揮することができました。

今後は、今回の留学で得た経験を学校生活や看護の実習に活かしていきたいです。特に、留学を通して身につけた英語や韓国語を話す自信を大切に、母国語以外の言語を話すことを恐れず、これからもさまざまな国の人と積極的に交流していきたいです。また、今回学んだリーダーシップも学校生活や実習の中で活かしていきたいです。リーダーシップは、ただ人を引っ張ることだけではなく、周りの人の意見を聞き、協力しながら一つの目標に向かって進むことも大切だと学びました。これからは、相手の文化や考え方を尊重しながら周囲と協力し、自分から行動できる人になりたいです。



リーダーシップについての発表。私たちのグループは「文化の違いを理解し、互いに尊重することの大切さ」そして、「違いを持った人たちをつなぐことがリーダーシップにつながる」ということを伝えました。（ステージ左から筆者、韓国、韓国、タイ、中国、中国の学生）



百済文化団地で韓国の伝統衣装であるチマチョゴリを着た筆者。自分好みの衣装を選んで、歴史ある建物を見てまわりが、沢山写真を撮影しました。

国立感染研・妹尾氏 CDIの基礎から最新知見まで紹介

熊本保健科学大学大学院は、国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所と連携大学院の協定を締結しています。最先端の研究所において第一線で研究されている研究者と大学院生が触れ合うことは、学問に対する好奇心の深まりや研究に対するモチベーションを高める機会となると考えます。それは、大学院生だけでなく、教職員も同様です。そこで、本学学術研究会議と共催で、連携大学院の客員教授で国立感染症研究所 細菌第二部第三室長の妹尾充敏先生をお招きして「Clostridioides difficile感染症（CDI）について」というテーマで講演会を開催しました。

ご講演では、前任地のインドでの生活エピソードを導入に、CDIの疫学、検査、診断、予防、国際協力について、基礎から最新の知見に至るまでを大変わかりやすくご教授いただきました。聴講した大学院生からは、「専門分野は異なっても、研究の考え方やアプローチ方法がよくわかり、これから自身の研究を進めるうえで、大変参考になった」といった声が寄せられ、次世代を担う実践家・研究者たちにとって非常に有意義な刺激となりました。

CDIは、医療関連感染や難治性の再発により臨床現場で大きな課題となっています。そのため、講演会については広く県内の保健医療機関にもご案内を差し上げ、外部機関からも会場及びオンラインで多くの方々にご参加いただきました。ご多忙の折、貴重なご講演をいただきました講師の妹尾充敏先生、ならびにご参加いただいた皆様に心より厚く御礼申し上げます。本講演の成果を今後の教育・研究活動の発展へと繋げてまいります。



外部機関からも参加があった学術講演会の会場

アカデミックスキル
支援センター

レポート

「アカデミックスキルⅡ」へ学生指導員、リーダー学生

後期授業を控え相次ぎ研修会

後期授業の開始を控え、アカデミックスキル支援センターでは「アカデミックスキルⅡ」を支援する学生指導員とリーダー学生の研修会を相次いで開きました。

9月7（月）、8日（火）の学生指導員研修では、上級指導員の2人が考案した研修プログラムに沿って5人が学びを深めました。プログラムはメールマナー、電話のかけ方、司会進行など4ステップに分かれ、ステップごとに実際の場面を想定したロールプレイング方式で実施。社会人でもある外部指導員や教員が審査役を務め、学生たちは全員が合格するまで指導を受けていました。

同15（火）～17日（木）のリーダー学生研修には、前期からリーダーを務めている9人が参加。学生指導員が講師となり、指導員研修の内容を指導。合間に、文章作成に関する簡単な講義を挟むなど、内容の濃い時間を過ごしました。

今後、リーダー学生は週2回程度の研修で「アカデミックスキルⅡ」の内容を先取り学習し、授業では受講学生をサポートします。

（アカデミックスキル支援センター）



リーダー学生研修で、学生指導員の説明を聴くリーダーたち



メンバー同士が教え合い、意見交換を行った学生指導員研修

上級指導員が考案した研修プログラム用テキスト



貴重な助言得て最後の追い込みへ 14人が修士論文中間発表

令和8年度の大学院修士論文中間発表会が9月4日（金）、1304講義室Mであり、医学検査、看護、リハビリテーション領域の計14人（一部オンライン参加）が登壇しました。

発表は1人15分の持ち時間で行われました。演壇に立った学生たちは、スライドを使ってこれまでの研究の成果や進捗状況、今後の方向性などを披露しました。その後の質疑応答では、出席した教員から領域を超えての質問や解析等に対するアドバイスなどがあり、活発なやり取りが見られました。

発表会を見守った前田ひとみ研究科長は「他領域の発表も聞いて自分の中に落とし込み、完成に向けてブラッシュアップしてほしい」、竹屋元裕理事長・学長も「質疑応答を通じて足りないところも認識できたと思う。これを機会に、期限内に完成させてほしい」と話していました。（NL編集部）



大学院修士論文中間発表会の会場。領域を超えて活発な質疑応答が行われました

参加者が無料版AIについて理解を深めたFDセミナー



FDセミナー

令和8年度第1回FDセミナーが9月10日（木）、1501講義室Mで開かれ、医学検査学科の亀山広喜准教授が「無料版AIでここまでできる-実務効率化とGemini Notebookの活用法」と題して講演しました。FD委員会・DX推進室・情報保護委員会・学術研究会議の共催。

亀山准教授は冒頭、生成AIは正解を記憶しているのではなく、文脈から次に続く確率の高い言葉を予測して文章を生成しているという基本的な仕組みを解説。そのうえで、「無料版AIで何ができるのかを理解し、ご自身の日常業務にあてはめて判断できる状態になってほしい」と述べ、「実際の業務のほとんどは無料版の機能で十分対応できます」と話しました。

セミナーでは、代表的な4つの生成AIツール（ChatGPT、Gemini、Claude、NotebookLM/Gemini Notebook）が紹介され、参加した教員たちは業務への具体的な活用例をはじめ、無料版利用時の注意点やセキュリティ面での安全な設定方法について熱心に耳を傾けていました。

（NL編集部）

心の疲れ 早く気づいて

メンタルヘルス研修会

令和8年度「こころとからだの健康づくり」施策の一環として、衛生委員会は9月10日（木）、50周年記念館でメンタルヘルス研修会を開催しました。熊本産業保健総合支援センターの森田裕子氏を講師に迎え、セルフケアとラインケアの2部構成で実施しました。

第1部（全教職員対象）では、メンタルヘルス対策の基本や、心の疲れに気づき自分で整えるセルフケアについて解説。地震などのストレス要因が続く中、日常の中で心身の状態を確認することの重要性が示されました。

続く第2部（管理職・チームリーダー対象）では、部下の変化に気づき適切に支援するラインケアをテーマに、声かけのタイミングや面談の進め方、健康管理における上司の役割など、現場で悩みやすい点を具体的に紹介。参加者は、実務に直結する内容に熱心に耳を傾けていました。（NL編集部）



セルフケアの重要性などを学んだメンタルヘルス研修会

無料版AIでどこまでできる？

岩下佳弘准教授による「理学療法概論（体験学習）」の模擬授業。持参した体操服に身を包み熱心に話を聴く生徒たち



熊本西高校

熊本西高校の1年生63人が9月9日（水）、本学を訪問し、施設見学や模擬授業を体験しました。同高校が毎年行っている「西高アカデミックインターンシップ（NAIS）」の一環です。NAISは、大学や専門学校で多様な学問分野についての授業・実習を体験することで、進路に対する視野を広げ、実社会のニーズを踏まえた発想を養うことを目的としています。生徒たちは、熊本県内の私立7大学と専門学校2校を訪問します。この日、生徒たちは大学の概要について入試・広報課の職員から説明を受けた後、学内施設を見て回りました。午後からは5グループに分かれ、各学科・専攻の模擬授業を受講しました。各教室では、活気ある雰囲気の中で模擬授業が進められました。（入試・広報課）

熊本国府高校

熊本国府高校の生徒37人が9月16日（水）、本学を訪れました。入試・広報課職員から本学の全体概要や各学科・専攻の学び、医療職について説明を受けた後、生徒たちはアリーナや各種実習室などの学内施設を見学し、キャンパスの雰囲気を体感していました。レストランでの昼食を挟み、午後からは言語聴覚学専攻の宮本恵美准教授による模擬授業が実施されました。演習を交えた講義ということもあり、生徒の皆さんは終始和やかな雰囲気の中、楽しみながら熱心に受講している様子でした。（入試・広報課）



宮本准教授の話に耳を傾ける生徒たち



定規を使って反応速度を測定する生徒たち

水俣高校

水俣高校の生徒54人が9月16日（水）、本学を訪問し、各学科・専攻の模擬授業を体験しました。このうち、理学療法学専攻の模擬授業では、同校を卒業し、現在は本学理学療法学専攻に在籍する在学生が登場。大学での学びや実習の様子を後輩に向けて率直に語りました。高校時代の懐かしい話に花が咲く場面もありました。このほか、作業療法学専攻の爲近岳夫准教授の模擬授業では、日常生活の動作をテーマに、30秒定規を用いた反応速度の体験を取り入れながら、身体の仕組みやリハビリテーションの考え方を分かりやすく説明。定規を使った体験では、生徒たちが「もう一回挑戦したい」と積極的に参加していました。約5時間にわたる大学生生活を体験し、生徒たちには視野を広げる有意義な時間となりました。（入試・広報課）

インフォメーション

行事予定（9月28日～10月13日）

10/1（木）	私の部屋でランチを
10/10（土）	総合型選抜（リーダーシップ型）試験日

※「NEWSLETTER337号」は10月13日（火）に配信します。